



民児協こもろ

～民生児童委員は市民の皆さんに一番近い相談相手～

編集 小諸市民生児童委員協議会 広報部会

民生児童委員一斉改選に臨んで

小諸市民生児童委員協議会
会長 荒野亜士

市民の皆様

大正6年に創設された民生委員制度は、昭和・平成を経て令和元年の今年で102年の歴史を培ってきました。その根底には常に変

遷する時代の世相をとらえながら、誰もが安心して暮らすことの出来る社会を築いていかななくてはならないという強い思いがあります。そして、その思いのもと、私達民生児童委員は日々の活動を続けてきています。地域福祉の担い手として、市民の皆さんの一番身近な相談相手として務め、お互いの信頼関係を築きながら歩んできています。

今年12月1日には民生児童委員の3年に一度の一斉改選をむかえ、多くの委員の交代があります。改選があります。私達民生児童委員は地域の皆さんとの信頼関係にいささかの揺ら

ぎのないよう努力し務めて参りますので、市民の皆様のご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。全委員の皆様

今回の改選において約2/3の委員の交代が行われます。退任される方の中には10期30年間委員を務め上げた強者も含まれております。私も退任組の中に入らせてもらいました。



総会であいさつをする
荒野会長

荒野会長

一期ではありませんが小生の如き者が会長職を無事務めることが出来ましたのは、小諸市民児協の全委員の皆さんが協力して下さい、支えて下さったたまものです。厚く感謝致します。退任される委員の皆様、

退任される委員の皆様、本当にご苦労さまでした。今は民生児童委員としての

の任務をやり遂げたぞ、という気持ちでいっぱいだと思います。自分で自分を褒めてあげて下さい。少し休息して下さい。

この先、世の中はどんどん変わっていくと思えます。苦しい時もあると思えます。そんな時には民生委員の歌「花咲く郷土」を歌いましょう。

民生児童委員を務めていた時の気持ちを忘れずに持ち続けていければ、きっといい人生を歩んでいけるような気がします。希望のある明るい未来を信じて、明日に向かって進んで行きましょう。

【編集後記】 3年前の改選時に発足しました広報部は、市民の皆様は民生児童委員の活動を正しく理解していただく事を目標にスタートいたしました。

各号毎に部会を開き記事の内容を検討しましたが最初は戸惑うことも多く、各部員の意見が割れることも少なくありませんでした。

部員一同手探りで紙面作りに取り組んでいく中で、会議や部会の報告だけではなく、各委員が担当地区でどんな活動をし、どんなことを感じているか、生の声を載せたい！このような思いから生まれたのが「一期多会」のコーナーです。

8名の広報部員が協力しながら、原稿依頼、取材、写真撮影、紙面編集までを熟し、3年間で12回の「民児協こもろ」を発行させていただきました。

寄稿していただきました皆様、温かく見守っていただきました皆様、ありがとうございました。

住み慣れた家で 生涯安心して自分らしく・・・

2015年の介護保険制度改正にもない、「地域包括ケアシステム構築」という聞き慣れない言葉が出てきましたが、最初は誰が何をするのだろうか？と、皆が感じたのではないのでしょうか。一言で言うと、「介護予防」と、地域で支援を必要とする方々に対し、行政だけでなく、医療・介護ほか関係機関や、地域の「みんなので支え合う」ということです。

健康な高齢者やその家族



地域の介護予防教室

は、介護ということの現実感がありませんが、「介護が必要になったら施設に入ればいいや」と、皆さん考えるでしょうか？
では、なぜ介護予防と支え合いが必要なのでしょう？

*高齢化の現実は・・・
「2025年問題」という言葉を聞いたことがありませんよね。

団塊の世代が後期高齢者(75歳)に到達し、人口に占める割合がピークになる時期を言います。

では、みなさんの住んでいる小諸市の状況はどうでしょうか？

人口・・・42344人(2019・4現在)、65歳以上の高齢者・・・13429人、高齢化率・・・31.71%(男28.83・女34.48)という現状にあり、毎年1%程度高齢化が進んでいます。

こんな状況においては、

介護が必要になったとき、すべて介護施設や病院で対応することは困難ですね。

*健康・長寿の地域づくりのために・・・

誰もが住み慣れた家で、地域の皆さんと楽しく過ごせることが理想ではないでしょうか！そのために必要なのは、元気なうちから行なう「介護予防」です。

小諸市では、ささえ愛サポータ(地域介護予防指導者)養成に力を入れてい

ます。また、「高齢者の困りごと」について、小諸市と民生委員ほか関係機関は、協



地域の集いの場

働で調査と対策を検討し、具体化を進めています。

生涯安心して住める地域づくりのために、皆で支え合いの輪を強くしていきます。

二期目を終えて

民生児童委員になって

高年齢者福祉部会 長岡賢司

民生児童委員としての6年が過ぎようとしています。私がこれまでやってこられたのは地域の方に助けられていることが多いからです。80歳を過ぎても現役として畑仕事をしたり、市の研修会に参加している方がいます。自分から積極的に行動している方は認知症にもなっておらず、お友達を誘ったり様子を見に行ったりしてくれています。私も仕事があり、なかなか時間がなくて迷惑をかけています。でも社協が手助けしてくれていると思えば安心しています。

多くの人に経験してもらうことも必要です。何しろ

自分のためになると思い、役を引き受けてほしいです。

今、ふれあい給食は、ひとつのグループが主になってやっています。大杭には、まだ若い人のグループがあり、そこに上手につないでいくことで、これから先安定した活動が出来ると思います。

独身の男性や親と二人暮らしという家庭もあり、これも見守っていかなくてはならないでしょう。社協と相談しながらやってみれば、どなたでもできるのでと思います。

川辺地区 清水好子



研修会での一コマ